



第8回
日本放送作家協会賞
第5回
久保田万太郎賞

昭和43年5月17日
於日生会館8階会場

社団法人 日本放送作家協会

第八回日本放送作家協会賞受賞者

最優秀番組賞 「広島原爆三部作」

(広島テレビ)

演出者賞

テレビ部門 小川 秀夫

(フジテレビ)

ラジオ部門 沖野 瞭

(NHK)

男性演技者賞 渥美 清

女性演技者賞 渡辺美佐子

(新人会)

大衆芸能賞 桂 米朝

CM作品賞 「トヨタカローラ」

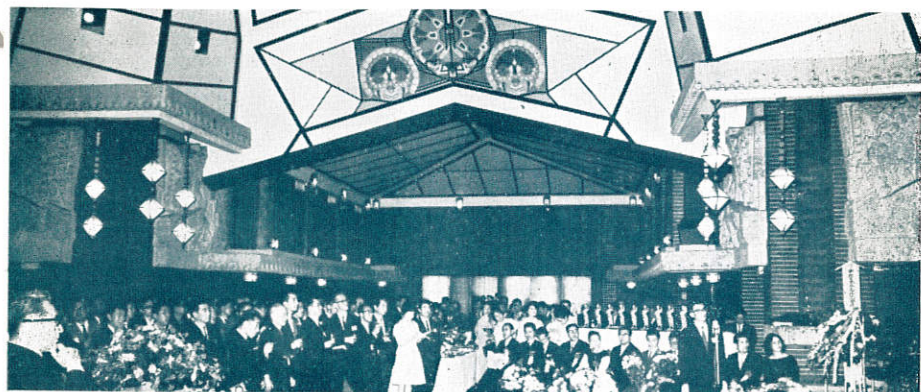
(トヨタ自動車販売)

新人脚本賞 戸 麻 竜 悟

第五回久保田万太郎賞受賞者

阪田 寛夫 「花子の旅行」

(TBS)



第八回日本放送作家協会賞選考委員(五十音順)

阿木 翁助	伊藤 海彦	猪俣 勝人
伊馬 春部	岩間 芳樹	植草 圭之助
上野 一雄	内村 直也	梅田 晴夫
江上 照彦	大垣 肇	大橋 公威
大林 清	香住 春吾	片岡 薫
門川 美代子	金貝 省三	金田 達夫
狩野 新	川崎 洋	キノ トール
神津 友好	阪田 寛夫	柴 英三郎
菅原 卓	鈴木 みちを	田井 洋子
高橋 辰雄	玉川 一郎	寺島 アキ子
寺田 信義	寺山 修司	長 沖 一
中川 明德	名和 青朗	西 島 大
長谷川 幸延	早坂 暁	藤本 義一
北条 誠	松浦 健郎	宮田 達男
村田 修子	茂木 草介	盛 善吉
矢代 静一	やなせ たかし	山下 与志一
若尾 徳平	和田 矩衛	

「広島原爆三部作」

広島テレビ

第一部 「人間、そのたくまじきもの」

第二部 「百日紅の花」

第三部 「ある夏の記録」



企画制作 広島テレビ放送株式会社

今日なお残る広島悲劇を広島人の立場から被爆者と現在の市民に代って訴え続けたいという意図で制作された。第一部は41年11月に放送された。第21回芸術祭奨励賞をはじめ多くの賞を受け、第二部は42年10月、同じく第22回芸術祭奨励賞を受けている。第三部は42年12月に放送されたが、この三部作の制作に四年もの歳月を費している。また第三部「ある夏の記録」は希望する局へ無償で提供されている。

地方局の正しい在り方

内村 直也

三月卅一日ジョンソン大統領は北爆停止、大統領選不出馬の声明を発したが、その直前アメリカ議員のタカ派には、ベトナム戦に原爆か水爆の使用を強く主張したものがあるといふ。その記事を読んだ時、私は、アメリカ人が、広島・長崎の被爆現場に対する認識が不足していることを強く感じた。

広島テレビ放送は、数年を費して、被爆者の日常生活を追いかけ、二本のドキュメンタリーと、一本のドラマからなる三部作を完成した。そして、原爆投下から二十二年を経た今日、尚そのツメ跡が強く遺されていることを、冷静に、しかも平和への祈りをこめて、如実に表現した。

広島局でなければ出来ない仕事である。そして、テレビという媒体によつて訴えることが最も効果的なテーマである。この企画並びに制作態度に、私は地方局というものの最も正しい在り方を感じる。

演出者賞

(テレビ部門)

小川秀夫
フジテレビ



昭和2年生れ。
昭和26年早稲田大学文学部芸術科卒。
円型劇場運動に参加。
昭和28年文化放送へ入社。
昭和34年フジテレビ開局とともにフジテレビ演出部へ移る。
主な番組、「三行広告」「直木賞シリーズ」「火曜劇場」「侍シリーズ」「テレビ劇場」他。

その誠実さに

寺島アキ子

思い出してみる小川さんの、どの作品にも小川さんの人柄からにじみでる誠実さと、デリケートな感覚がみなぎっています。

ラジオ時代から一貫して誠実に仕事を続けてこられた小川さんの受賞を、喜ぶ人は多いことでしょう。まさに、過去の実績です。

ことに小川さんの場合、その演出者としての才能に対してと同時に、プロデューサーとしての力量に対しても贈られた賞ではないかと思えます。

えいえいと続けてこられたテレビ劇場での、プロデューサーとしての業績と、ここから生れた数々の作品は、テレビの歴史に残るものだと思います。

昨年暮近くテレビ劇場が終ったとき、私は、非常に残念だったと同時に、「ほんとうにご苦労さまでした」と小川さんに申し上げたいと思いました。今、あらためてこの紙上を借りてそれを申し上げます。

そして、次のお仕事への飛躍を、心からお祈りいたします。

演出者賞

(ラジオ部門)

沖野 暁
NHK



昭和9年生れ。東京大学卒。
昭和33年NHKに入り広島中央放送局に勤務。35年よりAK芸能局へ。現在芸能局第一制作部に勤務。ラジオドラマ特にステレオドラマの演出、制作に当たっている。
主な演出作品「日本の微笑」「駆逐艦雷電の告別」(ステレオ・41年度芸術祭奨励賞)「愛と修羅」(ステレオ・42年度イタリア賞)「まんだら」(ステレオ・42年度芸術祭賞)「星にきらめくナジャ」(海外ラジオドラマ特集)「ハード・デイズ・ナイト」(同)

ステレオに賭けて

山下与志一

夜明けの広島駅におりたら、デンスケをかっいだ眼のグリッとしたビリケン頭の青年が待っていた。二人で、瀬戸内海の島々を取材して廻ったのが、沖野君との最初。

去年「イタリア賞」と「芸術祭賞」の二つ、生涯の幸運をつかんだのも彼の實力といえる。

——日本の風土性を、自分なりにみつめてゆきたい。音楽とドラマとドキュメントの境目のないような作品の可能性の追求。

抱負はこれまでの作品の発展につながる。その大胆卒直で直截な発想と演出法は、先輩や仲間うちでも定評のあるところ。ステレオドラマの制作は目下のところAKだけ、選ばれた環境での此後の活躍は誰もが期待したいところ。

この沖野君だけでなく、ラジオドラマのより純粹で高度な発展に努力する若い演出者たちが各局において、互いに交遊し、黙々として精進しあっていることもつけ加えておきたい。

男性演技者賞

渥美清



本名 田所康雄。
昭和3年3月東京生れ。
浅草フランス座を経て、松竹映画に出演。テレビはNHK「夢で逢いましょう」「若い季節」などから「大番」「おもしろい夫婦」「くいしんぼ」(フジTV)「泣いてたまるか」「東芝日曜劇場」(TBS)「カルテット」「日産スター劇場」(NTV)など数多くの作品で好演技を示している。

「男・渥美清」

宮田達男

渥美清さんは大きくなった。
「泣いてたまるか」をはじめとする主演シリーズの大活躍によって今回の賞が渥美さんに決った訳だが、「演技賞」というのではなく、「演技者賞」であるのが、まことにピッタリとした感じである。

演ずる技術も賞に価するのは当然だが、それより何より、渥美清は人間が大きくなっている。深くなった——本物である。

渥美清はまた、この受賞を、泣いて喜んでくれる男である。そして、真顔で、より一層の精進努力を誓ってくれる人だ。更に、これを踏み台に、また一つ大きくなってくれる人である。

「僕はやりますよ。……やれますよね？……やらなくちゃ……」

十数年前、有楽町の喫茶店で、ふと呟いたあの時の渥美さんの顔を今、私は思い出している——
おめでと、渥美さん。「よかったね」

女性演技者賞

渡辺美佐子



昭和29年俳優座養成所を3期生として卒業。劇団「新人会」所属。舞台で34年新劇演技賞。映画で第9回ブルーリボン助演賞を受けている。主な作品は舞台公演「オッペケベ」「マリアの首」。テレビは「ただいま11人」(TBS)「みだれがみ」(NHK)

貴重な存在

大林清

渡辺さんは今日までに何回かこの賞の候補にのぼっている。いつもおしくも逸したのは、総合点は申し分ないのだが、きめ手になる作品に恵まれなかったためである。

この人の演技については、すでに定評がある。役の幅の広いことも、この年の女優さんではめずらしい。しかも主役によくワキ役によい貴重な存在である。

昨年度の仕事としては「みだれがみ」(NHK)の与謝野晶子役が出色であり、役作りの苦心なみなみならぬものがあったと思われる上、一年間にわたる頑張りには敬服に値した。

晶子役の関西弁は完璧だったので、関西生れかさもなく関西で生活したことのある人かと思っていたが、まったく無縁なのだそう、指導者のセリフをテープに録音して勉強したのだと聞いた。

関西弁にはやかましい作者の茂木草介氏がさすがは名女優、非の打ちどころがないと激賞していたが、渡辺さんの芸道に処するきびしさがうかがわれる。



桂米朝

玉川 一郎

桂米朝氏について

第八回日本放送作家協会賞の一部門である大衆芸能賞の第五回受賞者として桂米朝氏を審査員が一致で推薦決定した。

関西に於ける演芸の啓発と指導、そして本業である落語（上方落語と言われるもの）に精進している姿を、我々はテレビ・ラジオを通じて能く知る事が出来たのである。

関西弁の軽妙さ、軽快さを十二分に駆使した面白さは、言語の理解度を容易にし、関西演芸（上方演芸）の面白さを、全国的に普及した功績も認めたいと思うのである。

益々斯道の為に尽されん事を期待する次第である。

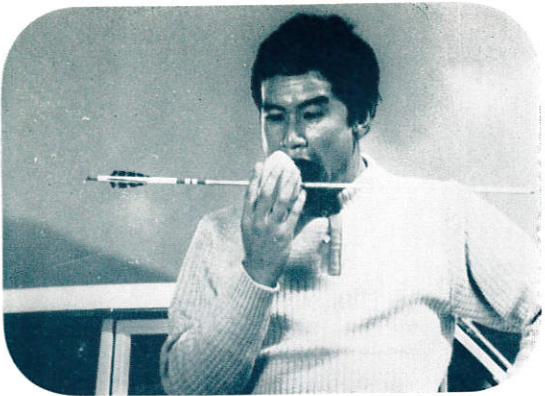


大正14年11月生れ。本名 中川 清。昭和18年、作家正岡容に師事。昭和22年、四代目桂米朝の門に入る。古典、新作と意欲的な高座をつとめながら、かたわら司会やディスクジョッキー、上方演芸の紹介、落語の解説や新人の育成にも力をつくし、芸界の若い人と同人誌「上方風流」を発行するなど多彩な活躍をしている。

CM作品賞

トヨタカローラ (ワイリアム・テル)

トヨタ自動車販売株式会社



企画 トヨタ自動車販売株式会社
制作 日本天然色映画株式会社

トヨタ自動車の総販売会社として、昭和25年4月に設立された業界最大の会社である。カローラ発売以来、これまで車にはみられなかったCMの制作をめざしており、カローラの売れゆきも予想外に伸び、評判もよい。
本社 名古屋市中村区泥江町二ノ二。東京事務所 千代田区九段南二ノ三ノ十八。

伸ばしたいところみ

梅田 晴夫

正直に言って、この作品よりアトに作られたインディアンと白人の出でくるものの方が面白いし着想の処理もすぐれているのだが、ここではこの作品の志向している方向が高く買われた。

これまでただただスピードの出ることや、どちらかといえば自動車としては当り前な性能ばかりを誇張するのが自動車CMの特性であったのを、このCMは良い意味で常識から外れようとしている。

そうでなくともウィットにもユーモアにもそしてセンスにも欠けるわが国の悲愴とも言えるほど切羽つまったCM作法にこの作品は一つの微笑を投げかけている。

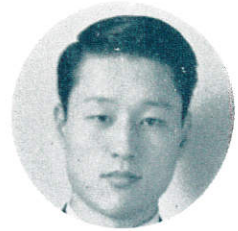
リラックスすることが罪悪であるような、さもなければ馬鹿笑いの強要であったりする次元の低さから、これは明らかに脱け出そうというところみである。

こうしたところみが伸びて欲しいからこそその贈賞であることをお忘れなく。

新人脚本賞

戸麻竜悟

「うだでなや」



本名 石井竜雄。
昭和15年9月神奈川県生まれ。
早稲田大学法学部卒。現在早稲田大学大学院法学研究所に在籍。
昭和42年、「放送作家教室」第12期を修了。昭和43年NHK放送記念日公募脚本にテレビ部門で入選。
横須賀市鴨居三ノ九。

素質の優秀さを

植草圭之助

われわれの周囲に、よく見られる普遍的な日常性の中で、都会人と地方人を対比させ、現代の風潮を諷刺している点、主題、モチーフともに卓れている。

殊に東北地方の方言のもつ素材さを、その人物の性格——生き方の象徴として生かし、そこに一派のユーモアを漂わせることに成功しているのは、この作者の素質の優秀さを示すものである。

さらにわれわれの眼をみはらせるような、清新な第二作、第三作を大いに期待したい。

なお、昭和四十二年度NHKテレビ・ドラマ懸賞で第一席に選ばれたこの作品が、はからずも、わが協会作家教室十二期生の手によって書かれたことを知ったとき、作者とともに、われわれも喜びを覚えた。

「おめでとう！」。

久保田万太郎賞

第五回

大
作
本
屋
の
お
ま
け

久保田万太郎

久保田万太郎賞

阪田寛夫

「花子の旅行」



大正14年10月大阪生れ。東京大学文学部卒。昭和26年朝日放送に入社。同社ラジオ制作部長を経て、昭和38年に退職後、創作活動に専念。「レンガの空」「わたしのキリスト」「狐に穴あり」など数多いすぐれたラジオ作品のほか、最近ではテレビの佳品も多い。
中野区白鷺一ノ十一ノ一ノ三

万太郎賞の成熟

菅原 卓

こんど阪田寛夫君が、万太郎賞に選ばれたことは、この成熟を意味する。

脚本や放送劇賞の選を、ずいぶん附合ったが、なにはともあれ、読めるもの、文芸作品としてなりたちうるもの、それでなければ故会長は承服できなかった。

当然のようであるが、技巧や、思いつきや、判らないとよく見えたり、新鮮だと思ったりする選考も世の中に多いからである。

そこにゆくと、阪田君は、詩人であり、文芸家であり、音楽家であり、なによりも、今日の作家として大切な、純度の高いユーモリストである。それが、さらに、放送文化の当然きたるべき純化とともに、成熟しきるものを待っているところだろう。

そして、はたまた、彼は美男なり、とつけ加え、名司会者たる要素をもたえよう。

受賞者一覽

日本放送作家協会賞

第一回

- 企画賞「日本の素顔」(NHK)
- 演出者賞 せんぼんよしこ(NTV)
- 男性演技者賞 松村達雄
- 女性演技者賞 黒柳徹子
- スポンサー賞 東京芝浦電気株式会社
- TRG賞 和野勉(NHK)
- サンキニエー賞 文化放送本社受付一同
- 第二回
- 企画賞「兼高かおる世界の旅」(TBS)
- 演出者賞 山田智也(ABC)
- 男性演技者賞 ハナ肇とクレイジーキャッツ
- 女性演技者賞 池内淳子
- スポンサー賞 株式会社資生堂
- TRG賞「娘と私」番組関係者(NHK)
- サンキニエー賞 東京新聞ラジオテレビ欄

第三回

- 企画賞 中川忠彦(NHK)

- 演出者賞 田甫一郎(NHK)
- 男性演技者賞 橋本信也(TBS)
- 女性演技者賞 芦田伸介
- スポンサー賞 大空真弓
- TRG賞「夫婦百景」(NTV)
- サンキニエー賞 東京放送劇団
- 特別功労賞 吉田秀雄
- 第四回
- 企画賞 大映株式会社テレビ室
- 演出者賞 八橋卓(NET)
- 演出者賞 山口淳(NHK)
- 男性演技者賞 藤田まこと
- 女性演技者賞 中村メイコ
- 大衆芸能賞 古今亭今輔
- CM作品賞 セイコー企業CFの製作スタッフ
- スズキ自動車工業CFの製作スタッフ
- スポンサー賞 近畿日本鉄道株式会社
- TRG賞 梅本重信(NHK)
- サンキニエー賞「チロリン村とクルミの木」関係者一同

第五回

- 企画賞「風雪」(NHK)

演出者賞 久野浩平 (RKB毎日)

” 「シルバークレールの空間」 演出

グループ (ニッポン放送)

男性演技者賞 今福正雄

女性演技者賞 南田洋子

大衆芸能賞 牧伸二

TRG賞「おかあさん」 (TBS)

” 「山本富士子アワー」 (フジテレビ)

CM作品賞「アイデアル」

サンキョー賞「オヤカヤ氏とオイソガ氏」

(文化放送)

第六回

企画賞「日産スター劇場」 (NTV)

” 「日本の謎」 (毎日放送)

演出者賞 岡山尚幹 (フジテレビ)

男性演技者賞 長門裕之

女性演技者賞 小山明子

大衆芸能賞「お笑い三人組」 関係者 (NHK)

特別賞「FM名作劇場」 (NHK)

” 「木島則夫モーニングショー」 司会者トリオ (NET)

CM作品賞「文明堂豆劇場」 文明堂

サンキョー賞「お天気ママさん」 (TBS)

第七回

最優秀番組賞「現代の映像」 (NHK)

演出者賞

テレビ部門 今野勉 (TBS)

ラジオ部門 田辺春夫 (NHK)

男性演技者賞 中村錦之助

女性演技者賞 佐藤オリエ (俳優座)

大衆芸能賞 獅子てんや・瀬戸わんや

CM作品賞 バイロット萬年筆株式会社

新人脚本賞 渡辺やえ子「町」「バラのとげ」

同 蕪木利代「賽の河原の鬼ン姿」

久保田万太郎賞

第一回 (39年)

毛利恒之

「十八年目の召集」

寺山修司

「犬神の女」

第二回 (40年)

茂木草介

「兎追いし」

「ニューヨークの日本人」

「逃亡者」

第三回 (41年) 該当なし

第四回 (42年)

高橋玄洋「いのちある日を」 (NET)

小野田勇「おはなはん」 (NHK)

第八回 日本放送作家協会賞式典委員会

(長)

金 貝 省 三

大 倉 徹 也

大 南 勝 彦

北 沢 杏 子

毛 利 恒 之

安 田 多 苗

社団法人 日本放送作家協会事務局

東京都中央区銀座西七一 銀座電通ビル

電話(毛)〇二七八・〇八八二・〇三九九

事務局長 窪 田 耕 一

職員 高 橋 よ し

森 本 弘 行